

	A	B	C	D	E
1	1年目の受取	2年目の受取	利子率	債券価格	
2	3000	103000	0.03	99500	
3					
4	<u>1年目の受取</u> $1 + i$	<u>2年目の受取</u> $(1 + i)^2$	総計	債券価格-総計	
5	2912.621359	97087.37864	100000	-500	
6					
7	+A2/(1+C2)	+B2/(1+C2)^2	+sum(A5:B5)	+D2-C5	
8					
9					

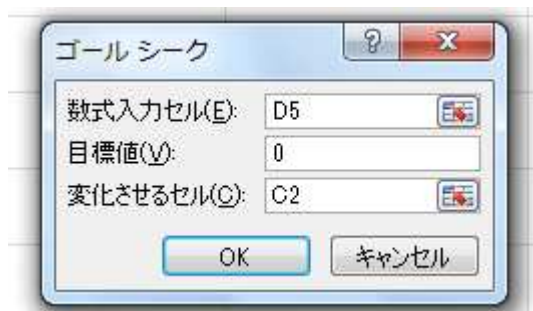
A5, B5, C5, D5 には、それぞれ吹き出しにある式を入力。

最初に「+」あるいは「=」をつけないと、式ではなく文字と認識されてしまい、計算してくれないので注意すること（Excel の基本の「き」）。

たとえば、「+A1+B1」あるいは「= A1+B1」と入力すれば、セル A1 とセル A2 の値を足してくれる。しかし、「A1+B1」とのみ入力すると、そのまま「A1+B1」と表示されるだけ。

（注）満期が 5 年のケースならば、「1 年目の受取」から「5 年目の受取」までを入力することになる。「総計」のところも、5 年分を合計することになる。

以上のように入力した後、「データ → What-If 分析 → ゴールシーク」と進めば、次のポップアップが現れる。



数式入力セル：動かしたい式が入力されているセル。ここでは D5。

目標値：D5 をゼロに近づけたいので、0 を入力。

変化させるセル：利子率を少しずつ変化させたいので、利子率が入力されている C2 を入力。

これで「OK」を押せば、適切な近似値（利子率）を返してくれるはず。